

# 全国農業女子EXPO25

話し手：代表 中岡 満代さん、岡田 めぐみさん

## 団体情報

所在地	埼玉県川口市
代表者	中岡 満代
設立年	2025年
メンバー数	5名（うち5名） 青森県、千葉県、愛知県、 香川県(※1)、埼玉県
特徴	地域・世代を超えた農業女子の 連携を通じ、農業の魅力発信を 世界規模で図り、農業の価値創 造と持続可能な農村活性化を目的 としています。



団体Instagram



### 補助の使い方内訳

- 万博出展 約 31 万円
- ワークショップ 約 52 万円
- SNS研修会 約 2 万円

※1 代表者は埼玉県在住ながら香川県で農業に従事しているため

※自己負担も含めた総額事業費は約86万円

## 一解決したかった課題一

### 「初めまして」からのスタート

グループ結成の経緯は、別の農業女子プロジェクトメンバー(※2)のグループから大阪万博出展に声をかけてもらったことから、万博出展に関心を持っていた女性農業者でグループを結成しました。世界規模の大舞台で女性農業者のPRができる機会は滅多にないと感じる一方で、メンバーは初対面だったので、初対面のメンバーで、自分たちのやりたいことを実現できるのか、不安も抱えながらのスタートでした。

※1 農業女子プロジェクトメンバーとは：農林水産省が事務局をしている農業女子プロジェクトに参加している女性農業者

### 万博後の活動の課題

万博への出展を主な目的として結成したグループであったため、万博終了後も同じ熱意を維持しながら活動を継続できるのかという不安がありました。また、農家の繁忙期と活動時期が重なることから、農作業と並行して、活動の準備を進める必要があり、ワークショップの対応にも偏りが生じたり、限られた人数で運営しなくてはならない状況になることが想定されました。



## 一補助でこんなことができました！一

### いざ！大阪万博への出展

出展は女性農業者の活動について取り上げることにしました。メンバーが全国各地にいるため、オンラインミーティングを重ね、作業分担を行いながら出展準備を進めました。

出展にあたりプレスリリースの配信や、地元新聞社・農政局への働きかけ、SNSでの広報活動を実施した結果、



当日は多くの方にブースへ足を運んでいただき、取材も受けるなど、日本の農業の魅力を広くPRすることができました。SNSを見て遠方から来場された方もおり、非常にうれしく感じました。ポスターやチラシ、自作のプロモーション映像、農産品・加工品を展示し、多様なツールで日本の農業や女性農業者の活動の魅力を発信することを意識しました。来場者一人一人との丁寧な対話を心がけ、質問や相談にも対応しました。様々な国籍の方と交流する中で、日本の農業への関心の高まりを実感することができました。

### 東京でのワークショップと展示

万博後は、日本の中心である東京でワークショップ（①米袋でエコバッグ作り②オリーブオイルの楽しみ方③マコモダケのしめ縄作り④利きりんご）と農産物・加工品の展示を開催しました。会場は人々の往来を意識し、羽田空港のカフェスペースと上野のコミュニティスペースを選定しました。

実際に開催してみると、万博会場以上に外国の方が多く、英語版の看板を作成することで、多くの方にワークショップを体験していただくことができました。英語が堪能ではなくても、コミュニケーションを図ることができ、自信につながりました。

自分以外の他のメンバーの農産物の説明を担当する場合もあり、それを通じてお互いの農産物への理解が深まりました。その結果、メンバー間でのコラボ商品も誕生しました。活動を重ねる中で、グループとしての一体感もより強まっていきました。



## 一今後のビジョン一

### 仲間を増やし活動の幅を広げていきたい

活動を通して、グループで取り組むことの意義や可能性を実感しました。今後もメンバー同士で連携しながら、どのような活動が展開できるのかが楽しみです。新たなメンバーの募集も行い、活動の幅を広げていきたいです。



# 特定非営利活動法人AGRI BATON PROJECT

話し手：代表 横田 祥 さん

## 団体情報

所在地	茨城県龍ヶ崎市
代表者	横田 祥
設立年	NPO法人設立2024年（団体設立2020年）
メンバー数	207名（うち女性187名） 36都道府県
特徴	「農業は楽しい！」を子どもたちへ伝え、農業を子どもたちのあこがれの職業にすることを目標に全国のメンバーとともに活動を展開しています。



団体サイト



### 補助の使い方内訳

- 食育カフェ開催準備 約 50 万円
- 先進地視察 約 20 万円
- 研修会 約 30 万円

※自己負担も含めた総額事業費は約107万円

## 一解決したかった課題一

### 対面交流の重要性

200名を超えるメンバーが全国各地にいるため、コミュニケーションは主にオンラインで行っています。LINEのオープンチャット機能を活用し、月に一度はZoomでミーティングを開催するなど工夫を重ねています。しかし、活動への理解や信頼関係をより深めるためには、やはり直接顔を合わせて対話する機会が最も重要であると感じていました。



### 活動の幅を広げたい

絵本の読み聞かせは、賛同して下さるメンバーや企業が増え、全国的な認知も広がっていると感じています。メンバーが自信を持って活動できるよう、食農教育プレゼンター（※1）の資格が取れる認定講座を設けています。子どもたちに農業をより身近に感じてもらうためには、絵本の読み聞かせに加え、新たな取り組みも必要ではないかと考えていました。



※1 食農教育プレゼンターとは：絵本の読み聞かせという誰にでも身近で簡単なツールを軸に誰もが子どもたちへの食育・食農教育に気軽に取り組むことができる認定講座

## 一補助でこんなことができました！一

北海道で初めて交流会・研修会を開催！

「食育カフェ」の実施に向けて

今回、初めて北海道にてグループの交流会・食育研修会・子どもへの読み聞かせ・先進施設視察を実施することができました。2日間滞在し、1日目に農業学習施設クボタアグリフロント（株）クボタ）の施設内のスペースで、来館者向けに絵本の読み聞かせを行い、メンバー同士でイベントの開催に関するノウハウを共有することができました。読み聞かせの参加者の中からグループに加入して下さる方がいて、お子さんからも「農家になってみたい」との声も上がるなど、有意義な会となりました。その後、グループの研修会を開催しました。活動内容を整理し、食育カフェ実施に向けた具体的なアイデア出しを行いました。私たちにしかできない企画を検討することができ、意欲が一層高まりました。なお、北海道での研修会以外でも、円滑な組織運営について学ぶオンライン研修会も開催しました。デモ実習を行いながら、コミュニケーションスキルを養うことができ、今後の組織運営に活かしていきたいです。

北海道滞在2日目にクボタアグリフロントの見学を行いました。日本の農業の現状や課題、先進的な取組が分かりやすく展示されており、食と農業の理解を深めることができました。農業経営をシミュレーションゲームで学ぶ体験もあり、子どもにとって興味を持ちやすい形で伝えていくことの重要性を実感しました。併設のカフェでは、文学作品と野菜を結びつけたメニュー紹介など工夫が凝らされており、食育カフェ開催の参考になりました。

食育カフェは、全国各地のメンバーが関わりのある農産物直売所で開催する予定です。山形県と長野県では食育カフェ開始に向けたテストを行っており、地元で採れる野菜を使用したお菓子の試作を進めています。メニュー開発に加えて、より興味を持ってもらえるようディスプレイも趣向を凝らしたいと考えています。食育カフェのパンフレットも制作し、各直売所に置かせていただき、認知拡大に繋げていきたいです。

## 一今後のビジョン一

### 「食育カフェ」の実施、食育活動を広げていく

食育カフェの実施に向け、準備を進めていきたいと思えます。メンバーそれぞれの地域の特色が表れる取組ができると思うと、今から楽しみです。絵本の読み聞かせについても、引き続きメンバーの募集を行い、食育活動のさらなる拡大を目指していきたいです。



## 女性グループの活動支援



特定非営利活動法人AGRI BATON PROJECT



全国農業女子EXPO25

# 特集ページ AGRI BATON PROJECTの これまでの取組

# 5

YEARS  
2021-2025

## AGRI BATON PROJECTとは

農業をこどもたちのあこがれの職業にすることをめざし農業女子プロジェクトメンバー（※1）がスタートしたプロジェクトグループです。「農業は楽しい！」をこどもたちへ伝える絵本「あさごはんのたね」を製作出版しました。現在は、地元農業者による食農教育活動を全国展開するオンラインコミュニティで絵本という誰にでも取り組みやすいツールを使い、食農教育活動を取り組みやすいものとして全国へ広がっています。

※1 農業女子プロジェクトメンバーとは：農林水産省が事務局をしている農業女子プロジェクトに参加している女性農業者

## AGRI BATON PROJECT 発足の経緯



「中学校での将来になりたい職業で農業を挙げた人が誰もいなかった」との知り合いからの報告から、一農家の女性にもできることとして、農業をこどもの頃から身近に感じてもらう取り組みを始めました。



※2 食農教育プレゼンターとは：絵本の読み聞かせという誰にでも身近で簡単なツールを軸に誰もが子どもたちへの食育・食農教育に気軽に取り組むことができる認定講座

## 5年間で、一番大きな壁だと感じた出来事

任意のグループからNPO法人になったこと  
NPO法人化する際は、書類作成等事務手続等大変でしたが、皆で得意なことを作業分担し乗り越えました。グループがNPO法人となったことで、女性農業者がより自信をもって活動でき、学校教育の場や教育委員会に対して話の聞いてもらえる機会が増えました。



## AGRI BATON PROJECTとして活動をしてよかった!と思ったエピソード

農作物を作っている農家さんが思いを込めてこどもたちに食農教育絵本を読み聞かせたことで、こどもたちが嫌いだった野菜や果物が食べられるようになった話や、読み聞かせ後日、絵本に出てきた野菜や果物が給食に出たときにこどもたちが学校で盛り上がった話を聞いた時に嬉しく思いました。



## 次の5年間を見据えて、目標やアクションプランを教えてください

活動当初から10年の活動にすることを目標に据えていたので、2030年までに食農教育絵本4冊出版をゴールに設定していました。ありがたいことに多くの人に共感いただいております。いずれは次世代にAGRI BATON PROJECTの活動のバトンを渡したいです。



## Challenge! 5年間の歩み：2021年～2025年

### 2021年



活動として主な  
トピックスや課題

#### 1冊目の食農教育絵本の出版

「あさごはんのたね」を出版し、食農教育絵本を広めるアンバサダー的役割のAGRI BATON Runnerを組織。日本全国の農業女性・農業関係者、一般の方を繋ぎ、連携。

#### 食農教育絵本を通じた活動の開始に向けオンライン研修会の開催

素人だったメンバーが、読み聞かせ・絵本の歌・手遊びの専門家の研修を通じ、マルシェ等各地での読み聞かせ会の開催が可能に。

#### オンラインの普及によりグループ活動が全国規模に

コロナ禍の影響により、パソコンが苦手だった方も、研修会等のオンラインイベントへの参加のハードルが下がり、活動が全国規模に広がる。

課題を解決した  
方法など

1年の成果

### 2022年

#### ノウハウ研修会の開催とグループオリジナルアイテムの製作

専門家を迎えて全6回のマルシェ開催のスキル向上の研修会を開催し、マルシェの企画立案や集客方法を学習。

#### マルシェ開催のためのノウハウ研修会開催

研修を開催し専門家から学ぶことで、メンバーがマルシェ開催に対して自信がついた。

#### オリジナルアイテム製作で活動の周知が広がる

スキルが向上したメンバーが食農教育絵本の読み聞かせ会やマルシェを開催。オリジナルロゴ・エプロンを製作したことで幅広い周知が可能に。

### 2023年

#### 食農教育プレゼンター（※2）資格講座開始とグループをNPO法人に

メンバーや食農に関心のある方が食農教育プレゼンターの資格を取得することができる認定講座を開始するとともにグループをNPO法人化した。

#### 食農教育プレゼンターの認定講座を開始

自身をもって食育活動に活躍できる女性農業者を増やしたいという思いから、認定講座を開始。食農教育プレゼンターとして名刺をもつ女性農業者も増加。

#### 活動の継続性を高めるため法人化

グループとしての信頼性向上や会計面でも持続的に活動していくために、NPO法人化した。

### 2024年

#### 食農教育絵本の出版・研修会開催・広報ツール作成

「きょうのよるごはん」の出版や出版記念報告会を兼ねた組織の発展を考える研修会を開催。オンラインで組織運営のための研修会を実施。

#### 円滑な組織運営のためのオンライン研修会

オンラインでのデメリットであるメンバー間交流の不足やモチベーション低下解消のため、オンラインでの組織運営を学ぶ研修を2回開催。

#### ホームページの更新、パンフレット作成

グループの活動をメインで紹介したホームページを作成。活動内容を紹介したパンフレットも作成し、発信力も向上。

### 2025年

#### 施設見学と研修会・イベントの開催

北海道の農業学習施設クボタアグリフロントにて見学、研修会、イベントを開催。イベントを通して、学校施設以外での絵本を読む機会創出の大切さを実感。

#### 「食育カフェ」事業のための企画検討

学校施設以外での食農教育絵本を読む機会を創出するため、直売所などで「食育カフェ」というコンセプトで、食事の提供と食農教育絵本を読む機会創出を検討。

#### 組織運営のための研修会の実施と来年度の活動に向けた動き

オンラインで活動が継続できるよう円滑な組織運営に必要な人間関係の構築方法を学ぶ研修会を実施。今後の活動として「食育カフェ」の準備ができた。